



大竹・栗谷線、坂上線バスを 利用してみませんか

問い合わせ 地域公共交通活性化協議会(自治振興課内) ☎2142

平成27年2月号で大竹・栗谷線、坂上線バスの平成26年度上期の運行状況をお知らせしました。今月号では平成26年度下期と年間の運行状況をお知らせします。

大竹・栗谷線バス

■運営状況

平成26年度下期(10月から3月までの6カ月間)の運行経費は約679万円、前年度下期と比べ約30万円増額しています。

一方、運賃収入は約104万円で、前年度下期と比べて約2万円増額しています。運行経費に対する運賃収入の割合(収益率)は約15・4%で、前年度下期と比べてわずかに下がっています。

平成22年度からの5年間の運営状況を見ると、運行経費は燃料・油脂の高騰と車両の維持管理費(修繕費)などの増額により、平成22年度からの5年間で約128万円(約11%)増加しています。

一方、運賃収入は、沿線人口の減少に伴う利用者の減少により、平成

22年度からの5年間で約29万円(約13%)減少しています。運行経費は増加し、運賃収入は減少しているため収益率は減少傾向で、平成26年度は平成22年度からの5年間で最も低くなっています。

平成22～26年度(上・下期) 運営状況

		H22	H23	H24	H25	H26
運行経費 (千円)	上期	6,047	6,600	6,438	6,254	6,524
	下期	5,991	6,371	6,192	6,495	6,798
	合計	12,038	12,971	12,630	12,749	13,322
運賃収入 (千円)	上期	1,215	1,058	1,291	1,108	1,005
	下期	1,129	1,160	968	1,024	1,045
	合計	2,344	2,218	2,259	2,132	2,050
収益率 (%)	上期	20.1	16.0	20.1	17.7	15.4
	下期	18.8	18.2	15.6	15.8	15.4
	合計	19.5	17.1	17.9	16.7	15.4

■利用者数

平成26年度下期の利用者数は2,602人で、前年度下期と比べて66人(約3%)増加しています。

1便あたりの利用者数は2人で、前年度下期と比べて0・1人増加しています。

平成26年度の利用者数は前年度と比べて73人増加していますが、平成22年度と比べると1,224人(約19%)減少しています。

平成22～26年度(上・下期) 利用状況

		H22	H23	H24	H25	H26
利用者数 (人)	上期	3,350	2,873	3,219	2,683	2,690
	下期	3,166	3,097	2,428	2,536	2,602
	合計	6,516	5,970	5,647	5,219	5,292
1便当たり の利用者数 (人)	上期	2.1	2.1	2.4	2.0	2.0
	下期	2.2	2.3	1.8	1.9	2.0
	合計	2.1	2.2	2.1	1.9	2.0

平成22～26年度(上・下期) 運営状況

		H22	H23	H24	H25	H26
運行経費 (千円)	上期	7,300	7,361	7,893	9,070	7,874
	下期	7,318	7,319	8,179	8,189	8,250
	合計	14,618	14,680	16,072	17,259	16,125
運賃収入 (千円)	上期	3,583	3,475	3,831	3,597	3,571
	下期	2,752	3,057	2,927	2,709	2,567
	合計	6,335	6,532	6,758	6,306	6,138
収益率 (%)	上期	49.0	47.2	48.5	39.7	45.3
	下期	37.6	41.8	35.8	33.1	31.1
	合計	43.3	44.5	42.1	36.5	38.1

坂上線

■運営状況

平成26年度下期の運行経費は約825万円、前年度下期と比べて約6万円増額しています。

一方、運賃収入は約256万円で、前年度下期と比べて約14万円減少しています。

収益率は約31・1%で、前年度下期と比べて約2%減少しています。

平成22年度からの5年間の運営状況を見ると、平成24年4月からの増便や前飯谷地区を経由するルートの新設などにより、運行経費は平成22年度と比べて約150万円(約10%)増加しています。

運賃収入は平成24年度をピークに減少傾向にあり、平成26年度は最も多かった平成24年度と比べて約62万円(約9%)減少しており、平成22年度からの5年間で最も低くなっています。

収益率は平成25年度と比べて約1・6%改善しているものの、最も高かった平成23年度と比べて約6・4%減少しています。

■利用者数

平成26年度下期の利用者数は10,740人で、前年度下期と比べて763人(約7%)減少しています。1便あたりの利用者数は5・6人で、前年度下期と比べて0・3人減少しています。

平成26年度の利用者数は前年度と比べて1,679人減少しており、平成22年度からの5年間で5,041人(約19%)減少しています。

平成22～26年度(上・下期) 利用状況

		H22	H23	H24	H25	H26
利用者数 (人)	上期	13,742	13,054	12,366	11,819	10,903
	下期	12,942	12,424	12,009	11,503	10,740
	合計	26,684	25,478	24,375	23,322	21,643
1便当たり の利用者数 (人)	上期	8.0	7.6	6.3	6.0	5.6
	下期	7.6	7.3	6.2	5.9	5.6
	合計	7.8	7.5	6.2	6.0	5.6

大竹・栗谷線、坂上線バスとも利用者数、運賃収入は年々減少しています。

平成27年4月1日から利用者の利便性を向上させるため、大竹・栗谷線バスは大竹駅バス停を改札口前に移動させ、坂上線バスは運行ダイヤを見直し、前飯谷地区にバス停を新設しました。

これからも、大竹・栗谷線、坂上線バスが長く走り続けていけるよう、皆さんと一緒に守り、育てていきたいと思っています。

ルート沿線にお越しの際は、ぜひご利用ください。

※ ダイヤや運賃表は車内、自治振興課、各支所で配布しています。また、市ホームページでも見ることもできます。

坂上線のバス停の 位置が変わります

防鹿地区管渠(上水・下水)布設工事に伴い、坂上線の運行ルートである市道防鹿1号線が車両通行止めとなるため、工事期間中は国道186号を迂回するルートに変更します。

ルートの変更に伴い、「前淵渡」、「防鹿」バス停を工事期間中、国道186号に移設します。

バス停の移設時期は、工事の進捗状況によりですが、7月上旬以降になる予定です。バス車内や主要なバス停に移設日などを掲載したお知らせを掲示します。

こいこいバスの利用者 アンケートを実施します

こいこいバスが市民の皆さんの生活に役立つ移動手段であり続けるために、バスを利用される方のご意見をお聞きするアンケート調査を実施します。

○調査対象

「こいこいバス」を利用する人(小学生含む) 全便対象

○アンケート用紙の配布

7月5日(日)～11日(土)

5日(日)から7日(火)は調査員が乗車して配布します。

8日(水)から11日(土)は「こいこいバス」車内に備え付けていますので、お取りください。

アンケート用紙は期間中一人一部の配布とさせていただきます。

○アンケート用紙の提出方法

7月26日(日)までに「こいこいバス」車内、市役所(自治振興課)、各支所(大竹・玖波・木野・栗谷)に設置した回収箱に投函してください。

※ 木野・栗谷支所は土・日曜日、祝日を除きます。



バス車内事故防止 キャンペーンを実施します

バスの車内事故は、バスの事故の約3割を占めています。

走行中のバス車内での事故を防止するため、7月1日から31日まで「車内事故防止キャンペーン」を実施します。

バスは安全運転に徹していますが、やむを得ず急ブレーキをかける場合があります。

満席のため、立って利用する場合は、吊皮や握り棒にしっかりつかまりましょう。

バスの車内事故防止にご理解、ご協力をお願いします。